

## 本学におけるアクティブ・ラーニング実施状況についての調査報告

### 1 調査の目的

アクティブ・ラーニングの要素をもつ授業が、本学でどの程度実施されているのかを把握することを目的として、FD推進委員会のもとで Web 調査を実施した。この調査は、平成 28 年度年度計画 02,05 に示された「アクティブ・ラーニングの定義について整理するとともに、授業の実態について調査を行い、その拡充策・計画を取りまとめる。」に基づいてなされたものである。

### 2 調査方法

Web 調査により、各教員に平成 28 年度の主担当授業科目について回答するよう求めた。

### 3 調査期間

平成 29 年 1 月 24 日（火）～ 2 月 20 日（月）

### 4 調査対象

本学専任の授業担当教員を調査対象とした。回答数は、学部 198 科目、修士 142 科目、専門職 56 科目の計 396 科目である。回答率は 57.3%であった。

### 5 結果

#### (1) 項目別集計

11 の質問項目を設け、それぞれについて、「はい」、「いいえ」で回答を求めた。集計結果は、表 1 に示す通りである。「1. 聴く以上の関わり」は 9 割以上の授業でなされており、「5. 活動する過程で書いたり、話したり、発表する」こと、「4. 授業の中での活動」、「3. 高次の思考」、「9. 対話的な学び」は 8 割以上の授業でなされている。「11. 学習活動を振り返り次につなげること」、「7. 問題発見・解決ができるような授業」は 7 割以上の授業でなされている。「10. 見通しを持って粘り強く取り組めるようにすること」、「2. スキル育成」、「6. 自身の価値観の探究」、「8. 他者と協同する課題の設定」が 6 割以上である。全体的な傾向を見ると、既に、多くの授業でアクティブ・ラーニングの要素は取り入れられていることがわかる。授業によって目的や形態が異なるため、「協働する課題」、「自身の価値観の探究」、「スキル育成」、「見通しを持った粘り強い取り組み」については、それが可能であるか否かによって差が生じているということなのであろう。

表1 項目別集計

質問項目	はい	いいえ
1. 学生に聴く以上の関わりをすることを求めている。	375(94.7)	21( 5.3)
5. 学生が活動する過程で考えたことを、書いたり、話したり、発表したりする授業をしている。	329(83.1)	67(16.9)
4. 学生が活動する授業をしている。	325(82.1)	71(17.9)
3. 学生に高次の思考(分析、総合、評価)を促すようにしている。	324(81.8)	72(18.2)
9. 学生が自らの考えを広げ深める対話的な学びができるようにしている。	319(80.6)	77(19.4)
11. 学生が自らの学習活動を振り返り次につなげられるようにしている。	315(79.5)	81(20.5)
7. 学生が問題発見・解決できるような授業にしている。	311(78.5)	85(21.5)
10. 学生が見通しを持って粘り強く取組めるようにしている。	274(69.2)	122(30.8)
2. 情報伝達よりも学生のスキル育成に重きを置いている。	270(68.2)	126(31.8)
6. 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きを置いている。	260(65.7)	136(34.3)
8. 学生が他者と協働する課題を設けている。	249(62.9)	147(37.1)

(注) 項目の最初にある番号は当初の質問項目の番号。「はい」の回答が多い順に項目を並べ替えた。

## (2) 授業属性別にみた違い

表2-1から表2-3は、授業規模、授業区分、授業方法別に、質問項目に対する回答を集計したものである。授業規模別(表2-1)で見ると、概して授業規模の小さい30以下のクラスで、「1.聴く以上の関わり」や「4.授業の中での活動」や「2.スキル育成」がなされていると言える。学部・修士・専門職という授業区分別(表2-2)で見ると、専門職学位課程の授業の中で、「5.活動する過程で書いたり、話したり、発表すること」、「3.高次の思考」、「9.対話的な学び」、「11.学習活動を振り返り次につなげること」、「6.自身の価値観の探究」、「8.他者と協働する課題の設定」が、より多くなされていると言える。これに対して、学部の授業は、専門職学位課程や修士課程に比べると、アクティブ・ラーニングの要素をもつ授業の割合が少ないように見える。授業方法別(表2-3)で見ると、演習や、実験・実習・実技科目において、アクティブ・ラーニングの要素をもつ授業の割合が多い。演習では、「5.活動する過程で書いたり、話したり、発表すること」、「4.授業の中での活動」、「2.スキル育成」、「8.他者と協働する課題の設定」の実施率が高く、実験・実習・実技では、「9.対話的な学び」、「7.問題発見・解決」、「8.他者と協働する課題の設定」の実施率が高い。

表 2-1 授業規模別集計

質問項目	授業規模			
	～30人	31～80人	81人～	
1. 学生に聴く以上の関わりをすることを求めている。	295(97.0)	69(90.8)	11(68.8)	***
5. 学生が活動する過程で考えたことを、書いたり、話したり、発表したりする授業をしている。	261(85.6)	59(77.6)	9(56.3)	**
4. 学生が活動する授業をしている。	261(85.9)	58(76.3)	6(37.5)	***
3. 学生に高次の思考(分析、総合、評価)を促すようにしている。	250(82.2)	64(84.2)	10(62.5)	
9. 学生が自らの考えを広げ深める対話的な学びができるようにしている。	256(84.2)	56(73.7)	7(43.8)	***
11. 学生が自らの学習活動を振り返り次につなげられるようにしている。	246(80.9)	59(77.6)	10(62.5)	
7. 学生が問題発見・解決できるような授業にしている。	239(78.6)	61(80.3)	11(68.8)	
10. 学生が見通しを持って粘り強く取組めるようにしている。	220(72.4)	47(61.8)	7(43.8)	*
2. 情報伝達よりも学生のスキル育成に重きを置いている。	220(72.4)	45(59.2)	5(31.3)	***
6. 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きを置いている。	200(65.8)	54(71.1)	6(37.5)	*
8. 学生が他者と協働する課題を設けている。	191(62.8)	53(69.7)	5(31.3)	*

\*P&lt;0.05 \*\*P&lt;0.01 \*\*\*P&lt;0.001 以下同様。

表 2-2 授業区分別集計

質問項目	授業区分			
	学部	修士	専門職	
1. 学生に聴く以上の関わりをすることを求めている。	183(92.4)	136(95.8)	56(100.0)	
5. 学生が活動する過程で考えたことを、書いたり、話したり、発表したりする授業をしている。	162(81.8)	114(80.3)	53(94.6)	*
4. 学生が活動する授業をしている。	159(80.3)	114(80.3)	52(92.9)	
3. 学生に高次の思考(分析、総合、評価)を促すようにしている。	154(77.8)	117(82.4)	53(94.6)	*
9. 学生が自らの考えを広げ深める対話的な学びができるようにしている。	150(75.8)	117(82.4)	59(92.9)	*
11. 学生が自らの学習活動を振り返り次につなげられるようにしている。	146(73.7)	116(81.7)	53(94.6)	**
7. 学生が問題発見・解決できるような授業にしている。	153(77.3)	110(77.5)	48(85.7)	
10. 学生が見通しを持って粘り強く取組めるようにしている。	137(69.2)	99(69.7)	38(67.9)	
2. 情報伝達よりも学生のスキル育成に重きを置いている。	137(69.2)	89(62.7)	44(78.6)	
6. 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きを置いている。	111(56.1)	102(71.8)	47(83.9)	***
8. 学生が他者と協働する課題を設けている。	128(64.6)	76(53.5)	45(80.4)	**

表 2 - 3 授業方法別集計

質問項目	授業方法				
	講義	演習	講演	実験・実習 ・実技	
1. 学生に聴く以上の関わりをすることを求めている。	129(90.2)	96(96.0)	128(98.5)	22(95.7)	*
5. 学生が活動する過程で考えたことを、書いたり、話したり、 発表したりする授業をしている。	95(66.4)	95(95.0)	119(91.5)	20(87.0)	***
4. 学生が活動する授業をしている。	87(60.8)	98(98.0)	118(90.8)	22(95.7)	***
3. 学生に高次の思考(分析、総合、評価)を促すようにしている。	117(81.8)	82(82.0)	106(81.5)	19(82.6)	
9. 学生が自らの考えを広げ深める対話的な学びができるようにしている。	96(67.1)	87(87.0)	115(88.5)	21(91.3)	***
11. 学生が自らの学習活動を振り返り次につなげられるようにしている。	107(74.8)	85(85.0)	102(78.5)	21(91.3)	
7. 学生が問題発見・解決できるような授業にしている。	99(69.2)	83(83.0)	107(82.3)	22(95.7)	**
10. 学生が見通しを持って粘り強く取組めるようにしている。	90(62.9)	72(72.0)	91(70.0)	21(91.3)	*
2. 情報伝達よりも学生のスキル育成に重きを置いている。	57(39.9)	98(98.0)	94(72.3)	21(91.3)	***
6. 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きを置いている。	89(62.2)	70(70.0)	83(63.8)	18(78.3)	
8. 学生が他者と協働する課題を設けている。	70(49.0)	78(78.0)	83(63.8)	18(78.3)	***

(3) 授業に取り入れている形態と今後取り入れたい形態

表 3 は、現在授業に取り入れているアクティブ・ラーニングの形態を尋ねたものである。「3. グループワーク」、「7. 学生によるプレゼンテーション」、「8. 振り返り」の3つの実施率が高く、5割を超える。表 3 から、30 名以下の授業では「7. 学生によるプレゼンテーション」の実施率が 5 割を超え、専門職学位課程の授業では「2. PBL」、「3. グループワーク」、「5. ディベート」、「7. 学生によるプレゼンテーション」、「8. 振り返り」の実施率が高く、授業方法別にみると、演習では「3. グループワーク」、「4. ロールプレイ」が、一方、実験・実習・実技では「2. PBL」、「7. 学生によるプレゼンテーション」の実施率が高い。

表3 現在、授業に取り入れている形態

形態	授業規模				区分				授業方法				
	～30人	31～80人	81人～		学部	修士	専門職		講義	演習	講演	実験・実習・実技	
1.反転授業	20(6.6)	5(6.6)	0(0.0)		10(5.1)	9(6.3)	6(10.7)		10(7.0)	6(6.0)	9(6.9)	0(0.0)	
2.PBL	66(21.7)	16(21.1)	2(12.5)		38(19.2)	25(17.6)	21(37.5)	**	16(11.2)	31(31.0)	25(19.2)	12(52.2)	***
3.グループワーク	162(53.3)	49(64.5)	5(31.3)	*	107(54.0)	69(48.6)	40(71.4)	*	60(42.0)	69(69.0)	73(56.2)	14(60.9)	***
4.ロールプレイ	44(14.5)	9(11.8)	1(6.3)		30(15.2)	18(12.7)	6(10.7)		12(8.4)	26(26.0)	14(10.8)	2(8.7)	***
5.ディベート	46(15.1)	7(9.2)	1(6.3)		20(10.1)	19(13.4)	15(26.8)	**	16(11.2)	18(18.0)	15(11.5)	5(21.7)	
6.フィールドワーク	30(9.9)	1(1.3)	0(0.0)		8(4.0)	15(10.6)	8(14.3)	*	11(7.7)	11(11.0)	8(6.2)	1(4.3)	
7.学生によるプレゼンテーション	177(58.2)	28(36.8)	1(6.3)	***	101(51.0)	65(45.8)	40(71.4)	**	45(31.5)	70(70.0)	74(56.9)	17(73.9)	***
8.振り返り	140(46.1)	46(60.5)	9(56.3)		91(46.0)	62(43.7)	42(75.0)	***	70(49.0)	52(52.0)	62(47.7)	11(47.8)	
9.その他	32(10.5)	5(6.6)	1(6.3)		17(8.6)	15(10.6)	6(10.7)		4(2.8)	19(19.0)	14(10.8)	1(4.3)	***

表4 今後、取り入れたい形態

形態	授業規模				区分				授業方法				
	～30人	31～80人	81人～		学部	修士	専門職		講義	演習	講演	実験・実習・実技	
1.反転授業	15(7.6)	4(2.8)	11(19.6)		15(7.6)	4(2.8)	11(19.6)	***	7(4.9)	8(8.0)	12(9.2)	3(13.0)	
2.PBL	55(18.1)	24(31.6)	1(0.0)	*	43(21.7)	23(16.2)	14(25.0)		32(22.4)	21(21.0)	27(20.8)	0(0.0)	
3.ロールプレイ	23(7.6)	4(5.3)	0(0.0)		16(8.1)	7(4.9)	4(7.1)		6(4.2)	13(13.0)	8(6.2)	0(0.0)	*
4.ディベート	37(12.2)	8(10.5)	1(6.3)		20(10.1)	14(9.9)	12(21.4)	*	15(10.5)	23(23.0)	7(5.4)	1(4.3)	***
5.その他	2(0.7)	4(5.3)	3(18.8)	***	3(1.5)	2(1.4)	4(7.1)	*	4(2.8)	1(1.0)	4(3.1)	0(0.0)	

表4は、今後取り入れてみたい形態を示したものである。実数としては、「2.PBL」という回答が全体の80科目からあがっており、Problem/Project-Based Learningに期待する向きがある。

## 6 まとめ

今回の調査から、既に多くの授業でアクティブ・ラーニングの要素を持つ授業がなされていることが明らかになった。だが、こうした授業での取組は、個々の授業担当者に委ねられているところが多い。従って、個々の授業での導入の経緯を把握し、教員養成スタンダードと照らしあせながら、教員養成カリキュラム全体の中に位置づけ直してみる必要があるだろう。

学部の授業でのアクティブ・ラーニングの実施率は、大学院の授業に比べるといくらか低いという結果が見られた。この背景が、学部では基礎的知識や技能の習得に重きが置かれることと関連するのかの検討も必要になる。授業者は、この使い分けを経験的に行っているのか、気になるところである。

最後に、教員養成という点から考えた場合、いかなる能力や資質を形成する際にアクティブ・ラーニングが有効で、どのような場合には有効でないのかの検証も必要になる。実際に、アクティブ・ラーニングを導入した場合に、企図した資質や能力が形成されているのかの検証は欠かせない。特に、学部教育において、教員養成スタンダードに記された資質・能力の育成にかかわっての、アクティブ・ラーニングという手法の有効性の検証が、今後、不可欠になると思われる。